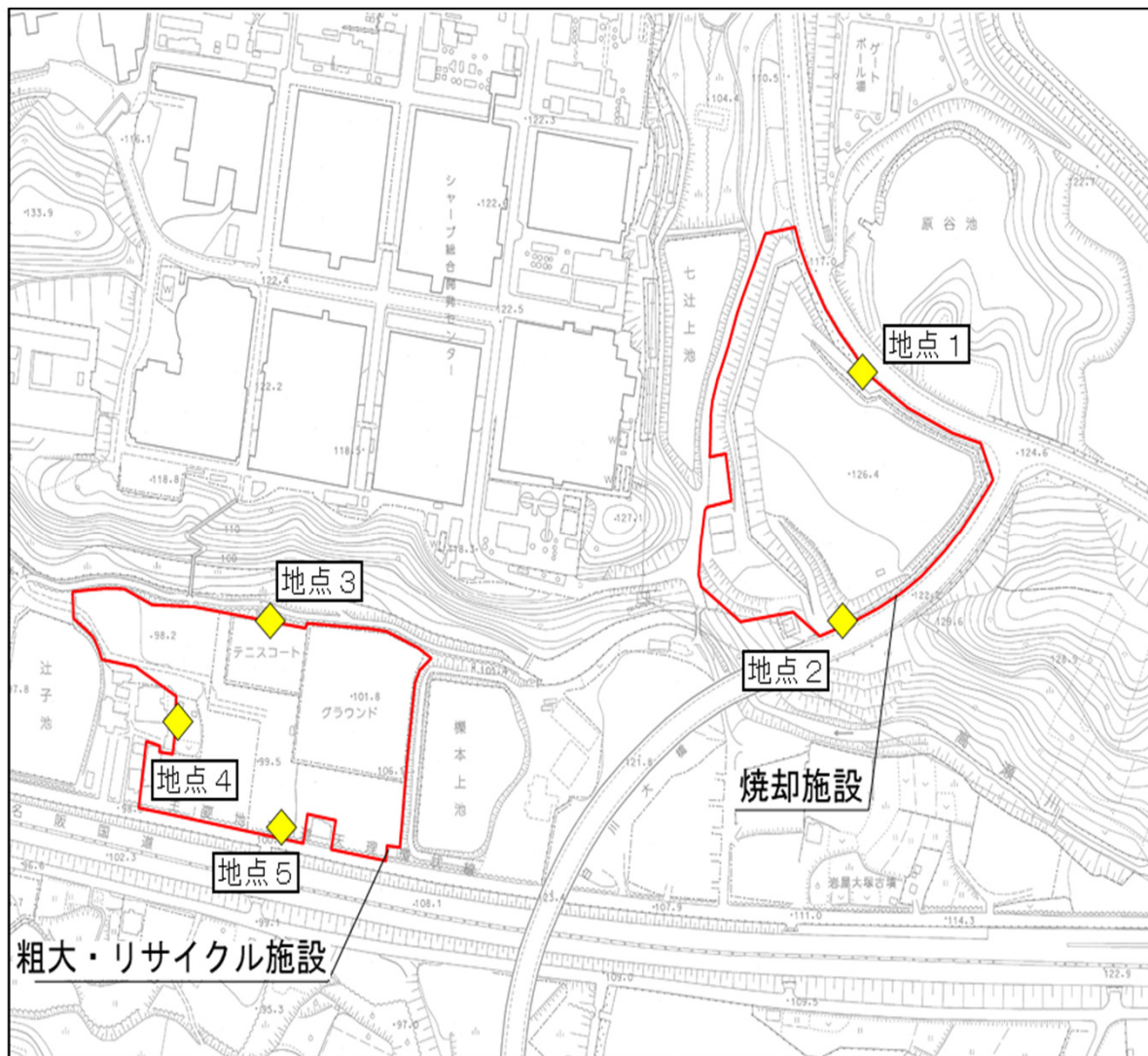


## 4. 環境影響評価項目及び調査・予測・評価の手法

### 環境騒音・振動、低周波音、悪臭 ③測定地点 (※方法書 186、192、197、200頁)



凡例	
	: 対象事業実施区域
	: 環境騒音・振動、低周波音 悪臭調査地点

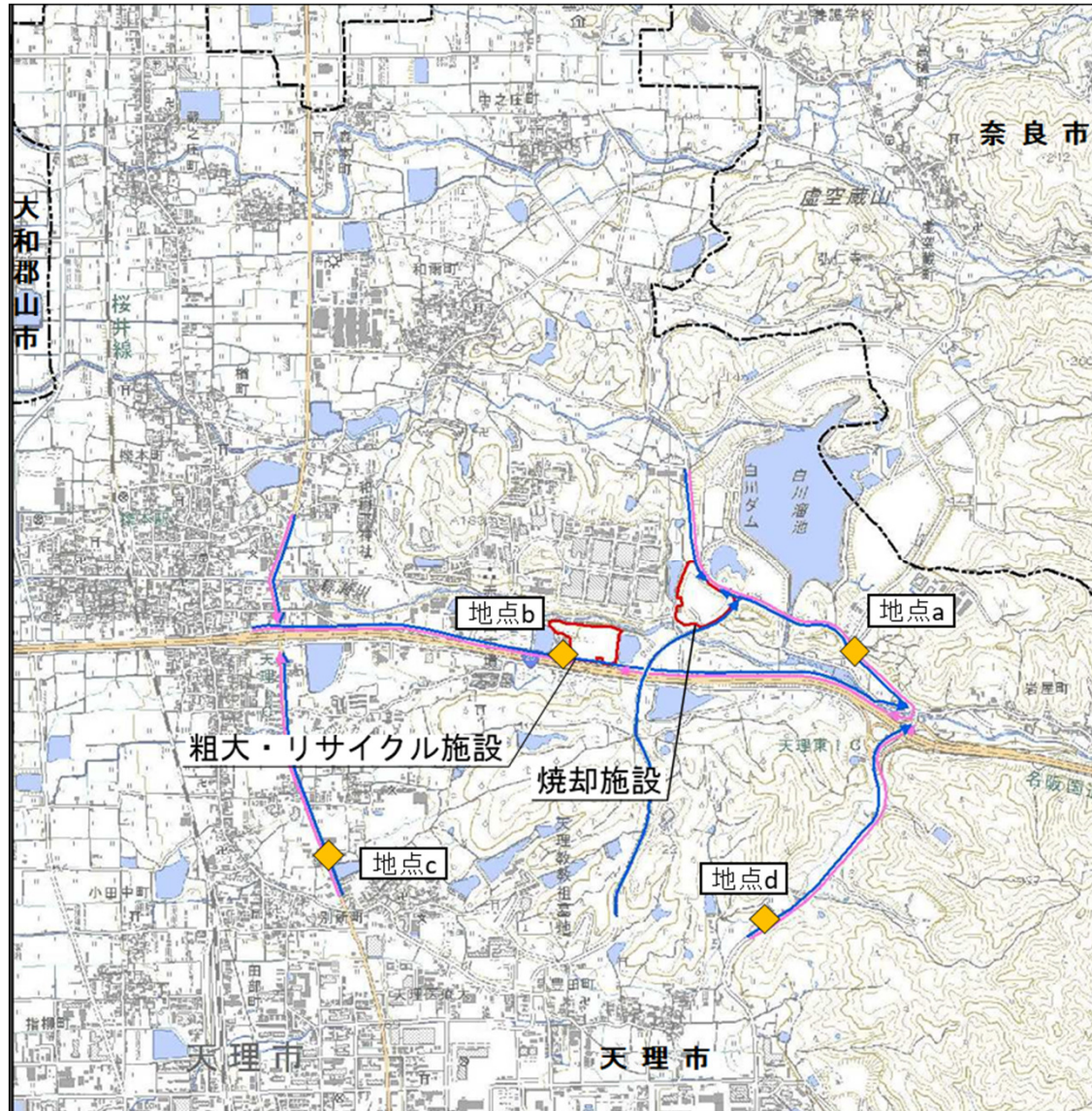
地点1	焼却施設建設予定地北端
地点2	焼却施設建設予定地南端
地点3	粗大・リサイクル施設北端
地点4	粗大・リサイクル施設西端
地点5	粗大・リサイクル施設南端






## 4. 環境影響評価項目及び調査・予測・評価の手法

### 道路交通騒音・振動、交通量

### ③測定地点

(※方法書187、193頁)



凡例	
	: 対象事業実施区域
	: 市界
	: 道路交通騒音・振動、交通量調査地点
	: ごみ収集車等走行ルート (焼却施設)
	: 不燃・リサイクルごみ収集車等走行ルート (粗大・リサイクル施設)

地点a	市道611号豊田櫟本線
地点b	名阪国道側道
地点c	一般国道169号
地点d	県道51号線

## 4. 環境影響評価項目及び調査・予測・評価の手法

### 部会意見（騒音、振動、低周波音）

部会意見	事業者
騒音・振動の調査地点について、敷地境界、民家等との距離・位置関係を準備書に記載すること。	部会審議の内容を踏まえ、準備書に記載する。
低周波音の調査について、周辺民家近傍の現況を十分調査した上で、予測・評価を実施すること。	部会審議の内容を踏まえ、調査・予測・評価を行い、準備書に記載する。

## 4. 環境影響評価項目及び調査・予測・評価の手法

### 審査部会における意見概要、事業者の見解（騒音、振動、低周波音）

意見	事業者見解	部会意見(案)
<p>図7.2-3 に示された、環境騒音の調査地点の、近傍の民家の地理的状況などを説明してください。</p>	<p>地点1と2は焼却施設用地のスロープを降りたそれぞれ南北の敷地境界付近であり、前面の道路交通騒音の影響を受ける地点です。近傍に民家は無く、直近民家でも地点2の南約100mであり、民家と用地の高低差は約20mです。</p> <p>地点3と4、5は粗大・リサイクル施設の敷地境界であり、平坦地です。地点4の近傍には民家が数軒、地点5の近傍には民家が1軒あります。</p>	<p>質問事項</p>
<p>図7.2-4 に示された、道路交通騒音の調査地点の選定理由と、周辺の状況を説明してください。</p>	<p>調査地点aとbは工事用車両及びパッカー車等の走行ルートから、調査地点cとdはパッカー車等の走行ルートから選定しており、近傍に民家等が存在し、かつ大気質の沿道調査地点と同一地点とするため、必要スペースや電源が確保出来る地点としています。</p> <p>地点aの周辺状況は、病院への分岐路の近傍であるほか、同じ市道上の天理東インター近くに民家が存在する環境です。</p> <p>地点bの周辺状況は、粗大・リサイクル施設に近接して数軒の民家があり、名阪国道及び側道の騒音影響がある地点です。</p> <p>地点cの周辺状況は、国道169号沿道であり、民家や宗教関係施設等が立地する環境です。</p> <p>地点dの周辺状況は、県道の沿道であり数軒の民家が立地する環境です。</p>	<p>質問事項</p>
<p>道路交通騒音について、現況騒音がすでに基準値をオーバーしている地点も測定し、準備書で評価をしていただきたい。</p>	<p>沿道で環境基準を超過している地点のある国道169号においても廃棄物搬入車両の運行は見込まれます。このため、国道169号沿道を含めた地点で道路交通騒音を測定し、それに廃棄物搬入車両が追加した場合の騒音変化の程度を事業の影響と考え準備書で整理します。</p>	<p>質問事項</p>

## 4. 環境影響評価項目及び調査・予測・評価の手法

### (6) 水質 ①調査手法 (※方法書203～204頁)

文献その他の資料調査				
・「環境調査報告書(水質編)」(奈良県)等の公共用水域水質の測定結果の収集、整理及び解析				
現地調査				
環境要素	調査項目		調査地点	調査期間
水質	平水時	生活環境項目	8地点(対象事業実施区域からの雨水が放流される2河川における放流地点前後で計4地点及び対象事業実施区域近傍のため池4地点)	4季(春季・夏季・秋季・冬季)に各1回
		健康項目		2季(夏季・冬季)に各1回
		ダイオキシン類		
		流量		4季(春季・夏季・秋季・冬季)に各1回
	降雨時	浮遊物質		降雨時2回(各降雨毎に3検体)
		濁度		
		流量		
底質	土壌環境基準項目		対象事業実施区域からの雨水が流入する近傍のため池4地点	平水時1回
	ダイオキシン類			

## 4. 環境影響評価項目及び調査・予測・評価の手法

### (6) 水質

#### 【分析項目】(※方法書202頁)

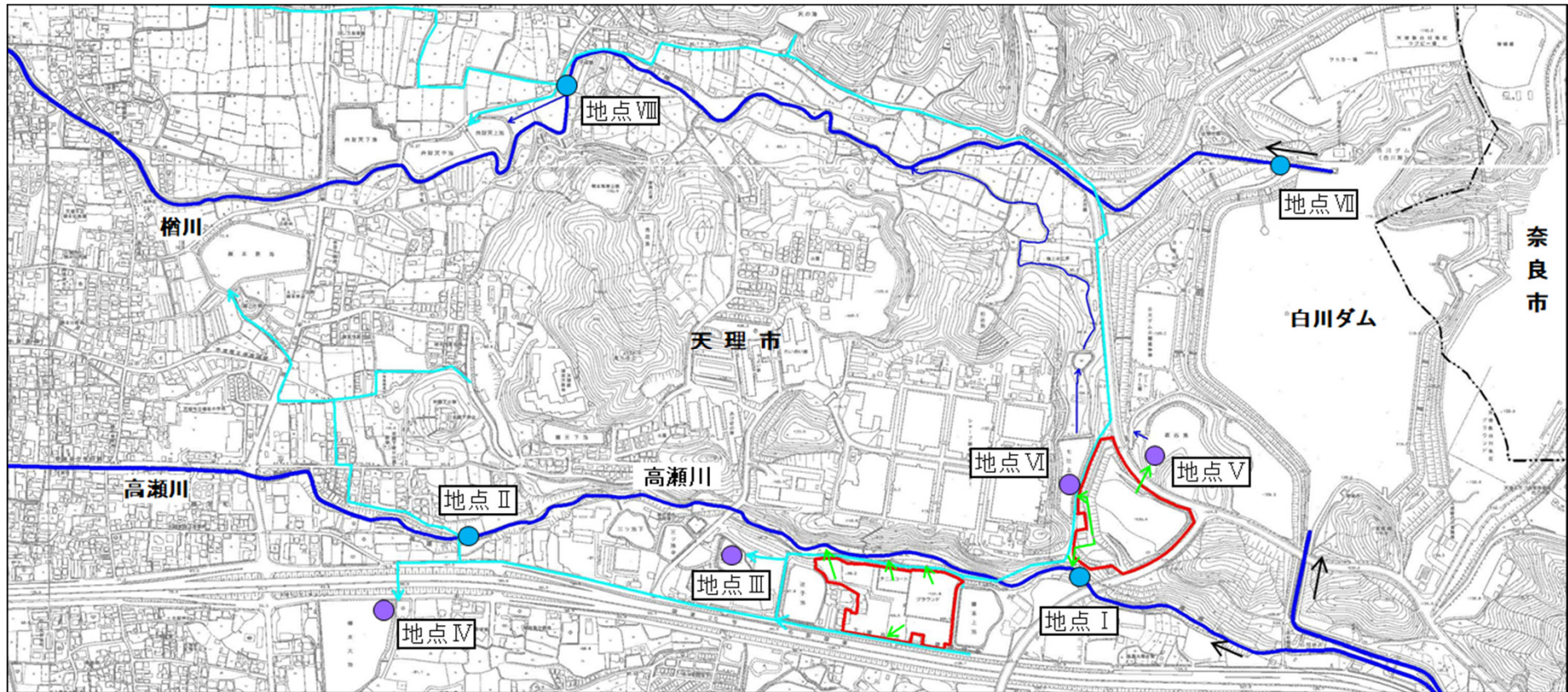
(水質) 生活環境項目	水素イオン濃度(pH)、生物化学的酸素要求量(BOD)、化学的酸素要求量(COD)、浮遊物質量(SS)、溶存酸素量(DO)、大腸菌群数、全窒素、全りん
(水質) 健康項目	カドミウム、全シアン、鉛、六価クロム、砒素、総水銀、アルキル水銀、PCB、ジクロロメタン、四塩化炭素、1,2-ジクロロエタン、1,1-ジクロロエチレン、シス-1,2-ジクロロエチレン、1,1,1-トリクロロエタン、1,1,2-トリクロロエタン、トリクロロエチレン、テトラクロロエチレン、1,3-ジクロロプロペン、チウラム、シマジン、チオベンカルブ、ベンゼン、セレン、硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素、ふっ素、ほう素、1,4-ジオキサン
(底質) 土壌環境項目	カドミウム、全シアン、有機リン、鉛、六価クロム、砒素、総水銀、アルキル水銀、PCB、ジクロロメタン、四塩化炭素、1,2-ジクロロエタン、1,1-ジクロロエチレン、シス-1,2-ジクロロエチレン、1,1,1-トリクロロエタン、1,1,2-トリクロロエタン、トリクロロエチレン、テトラクロロエチレン、1,3-ジクロロプロペン、チウラム、シマジン、チオベンカルブ、ベンゼン、セレン、ふっ素、ほう素、1,4-ジオキサン








#### ② 予測手法 (※方法書206頁)

影響要因	予測項目	予測地域	予測時期
切土工等	水の濁り	対象事業実施区域周辺の水域8地点	切土工等の実施による公共用水域の水の濁りに係る環境影響が最大となる時期
雨水の排水	水の濁り		雨水の排水により、各水質の予測項目の変化が生じる時期

## 4. 環境影響評価項目及び調査・予測・評価の手法

### (6) 水質 ③調査地点 (※方法書205頁)



凡例	
	: 対象事業実施区域
	: 市界
	: 河川
	: 農業用水 (白川ダム)
	: 排水経路 (雨水)
	: 水質調査地点 (水質のみ)
	: 水質調査地点 (底質を含む)

水質	地点 I	高瀬川上流
	地点 II	高瀬川下流
水質・底質	地点 III	上三ツ池
	地点 IV	櫛本大池
	地点 V	原谷池
	地点 VI	七辻上池
水質	地点 VII	檀川上流
	地点 VIII	檀川下流

## 4. 環境影響評価項目及び調査・予測・評価の手法

### 部会意見（水質）

部会意見	事業者
降雨時における水質調査について、強い雨が降ると予測される条件でも、調査・予測・評価を実施すること。	部会審議の内容を踏まえ、調査・予測・評価を行い、準備書に記載する。



## 4. 環境影響評価項目及び調査・予測・評価の手法

### 審査部会における意見概要、事業者の見解（水質）

意見	事業者見解	部会意見(案)
<p>給排水計画について、雨水は地形に従って流れる計画を持っておられるが、白川ダムは農業用水なので厳しく考えているという説明があったが、焼却施設の中に流れて水系にそれぞれ流れていく雨水について、何らかの危惧をもって考えているのか。</p>	<p>排水としては、焼却施設用地が元々山であった時から、それぞれ地区別に利水の受益地があります。供用後も元々の地形の配分通りに排水を分けないと、降った雨がため池に貯まらないということに留意しています。</p>	<p>質問事項</p>
<p>流出抑制施設はどのくらいの雨量を想定しているか。また、それ以上の雨が降った場合、敷地内で稼働し始めてから処理車両が入ってきたときに、雨水の水質に影響はないか。</p>	<p>調整池につきましては大和川流域調整池技術基準に基づいて1ヘクタールあたり530m<sup>3</sup>を貯める計画をしております。屋根の水を施設の中で使いますので現状より雨水が増えることはございません。また、ごみ収集車両は廃棄物処理法に従って汚水等が漏れない密閉構造とするため、処理車両に伴う雨水の水質への影響はありません。</p>	<p>質問事項</p>
<p>水質調査について、白川ダムが調査地点に入っていない。地点Ⅶは調査を行い、白川ダムが外れるのはなぜか。 また、水質と底質で8カ所というのは妥当な地点数か。</p>	<p>白川ダムには対象事業実施区域からの雨水排水の流入がないため、調査地点として選定していません。地点Ⅶは槽川のコントロールとして、雨水排水の影響を受けない上流側の河川水を調査する地点として選定しています。また、流入河川2箇所に対して、それぞれ影響を受けない上流と影響を受ける下流、それと下流側のため池4箇所、さらに現況把握のためため池4箇所については底質まで調査しますので、地点数としては妥当と考えております。</p>	<p>質問事項</p>

## 4. 環境影響評価項目及び調査・予測・評価の手法

### (7) 地盤、土壌

#### ① 調査手法 (※方法書207～208頁)

環境要素	調査項目	調査地点	調査期間
土壌汚染	土壌環境基準項目	対象事業実施区域内2地点	1回
	ダイオキシン類		

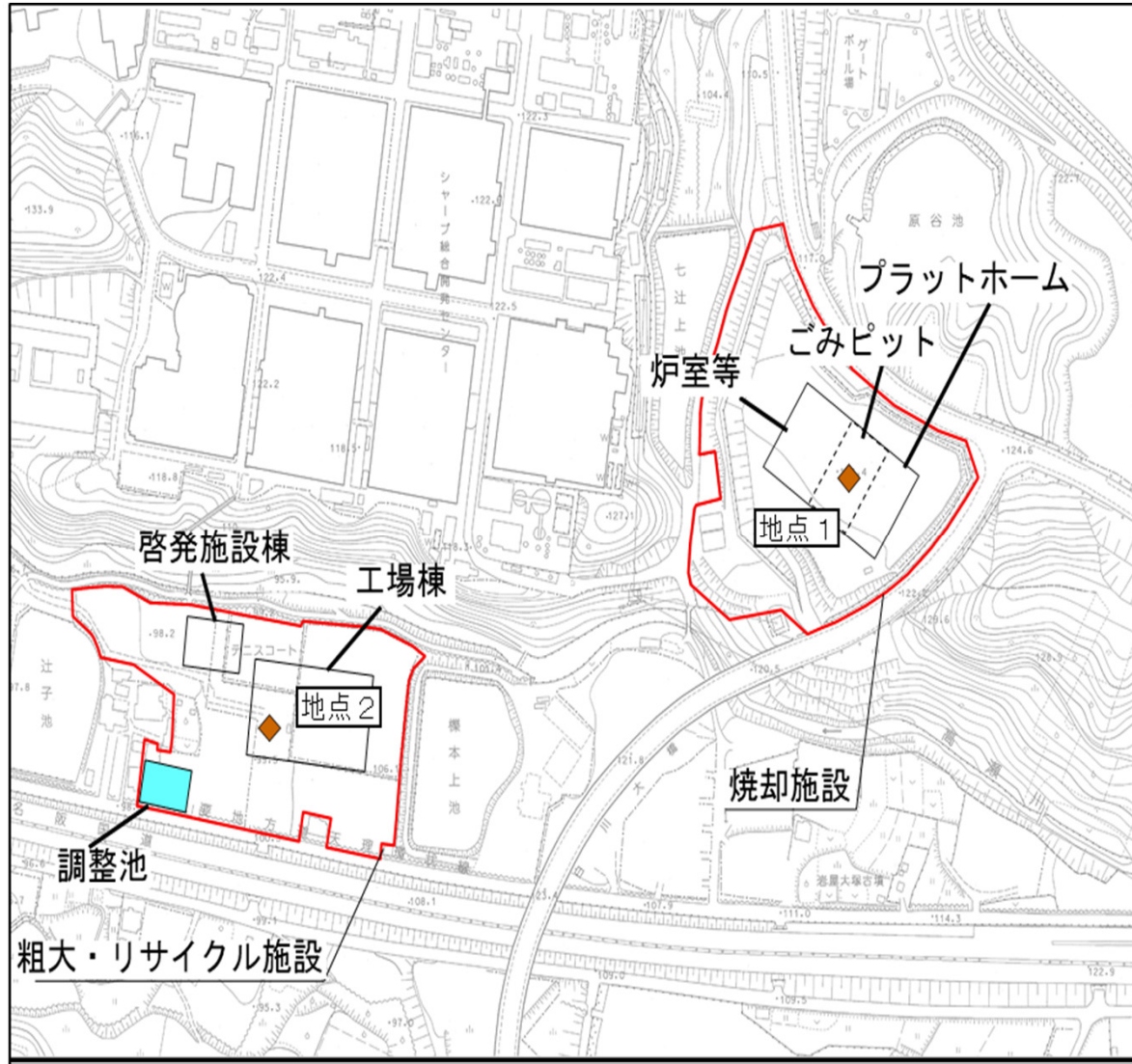
#### ② 予測手法 (※方法書210頁)

影響要因	予測項目	予測地域	予測時期
切土工等	土壌汚染	対象事業実施区域内2地点	切土工等の実施による土壌汚染に係る環境影響が最大となる時期
施設の稼働	土壌汚染		施設の稼働が定常の状態となる時期

# 4. 環境影響評価項目及び調査・予測・評価の手法

## (7) 地盤・土壌

### ③調査地点 (※方法書209頁)



凡例	
	: 対象事業実施区域
	: 各種施設建設予定地
	: 土壌汚染調査地点

地点1	焼却施設(ごみピット)建設予定地
地点2	粗大・リサイクル施設(工場棟)建設予定地

## 4. 環境影響評価項目及び調査・予測・評価の手法

### (8) 動物

#### ① 調査手法 (※方法書212頁)

文献その他の資料調査			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・動物に関する主な環境保全関係法令等の収集及び把握</li> <li>・環境省公表資料や奈良県版レッドデータブック等の収集による調査すべき情報の把握</li> </ul>			
現地調査			
環境要素	調査項目	調査地点	調査期間
動物	哺乳類	対象事業実施区域及びその周辺 (200mの範囲)	4季(春季・夏季・秋季・冬季)に各1回
	鳥類		4季(春季・初夏・秋季・冬季)に各1回
	猛禽類	対象事業実施区域及びその周辺 (調査地点から半径1km程度)	2月～8月(3日連続/月)×2営巣期
	両生類、爬虫類	対象事業実施区域及びその周辺 (200mの範囲)	4季(春季・初夏・秋季・冬季)に各1回
	昆虫類		3季(春季・夏季・秋季)に各1回
	陸産貝類		2季(春季・秋季)に各1回
	魚類	高瀬川及び檜川(対象事業実施区域より下流)で計3地点 原谷池及び辻子池で各1地点	4季(春季・夏季・秋季・冬季)に各1回
	底生動物		

## 4. 環境影響評価項目及び調査・予測・評価の手法

### (8) 動物

#### ② 予測手法 (※方法書214頁)

影響要因	予測項目	予測地域	予測時期
施設の存在	動物	調査地域・調査地点と同様	施設の稼働が定常の状態となる時期

## 4. 環境影響評価項目及び調査・予測・評価の手法

### (9) 植物

#### ① 調査手法 (※方法書215頁)

文献その他の資料調査			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・植物に関する主な環境保全関係法令等の収集及び把握</li> <li>・環境省公表資料や奈良県版レッドデータブック等の収集による調査すべき情報の把握</li> </ul>			
現地調査			
環境要素	調査項目	調査地点	調査期間
植物	植物相	対象事業実施区域及びその周辺 (200mの範囲)	4季(春季・夏季・秋季・冬季)に各1回
	植生		2季(春季・秋季)に各1回

#### ② 予測手法 (※方法書217頁)

影響要因	予測項目	予測地域	予測時期
施設が存在	植物	調査地域・調査地点と同様	施設の稼働が定常の状態となる時期

## 4. 環境影響評価項目及び調査・予測・評価の手法

### (10) 生態系

#### ①調査手法 (※方法書218頁)

環境要素	調査項目	調査方法
生態系	地域を特徴づける生態系	動植物の調査結果に基づき、上位性、典型性、特殊性の視点から複数の注目される動植物の種または生物群集及びその生息・生育環境の抽出

#### ②予測手法 (※方法書219頁)

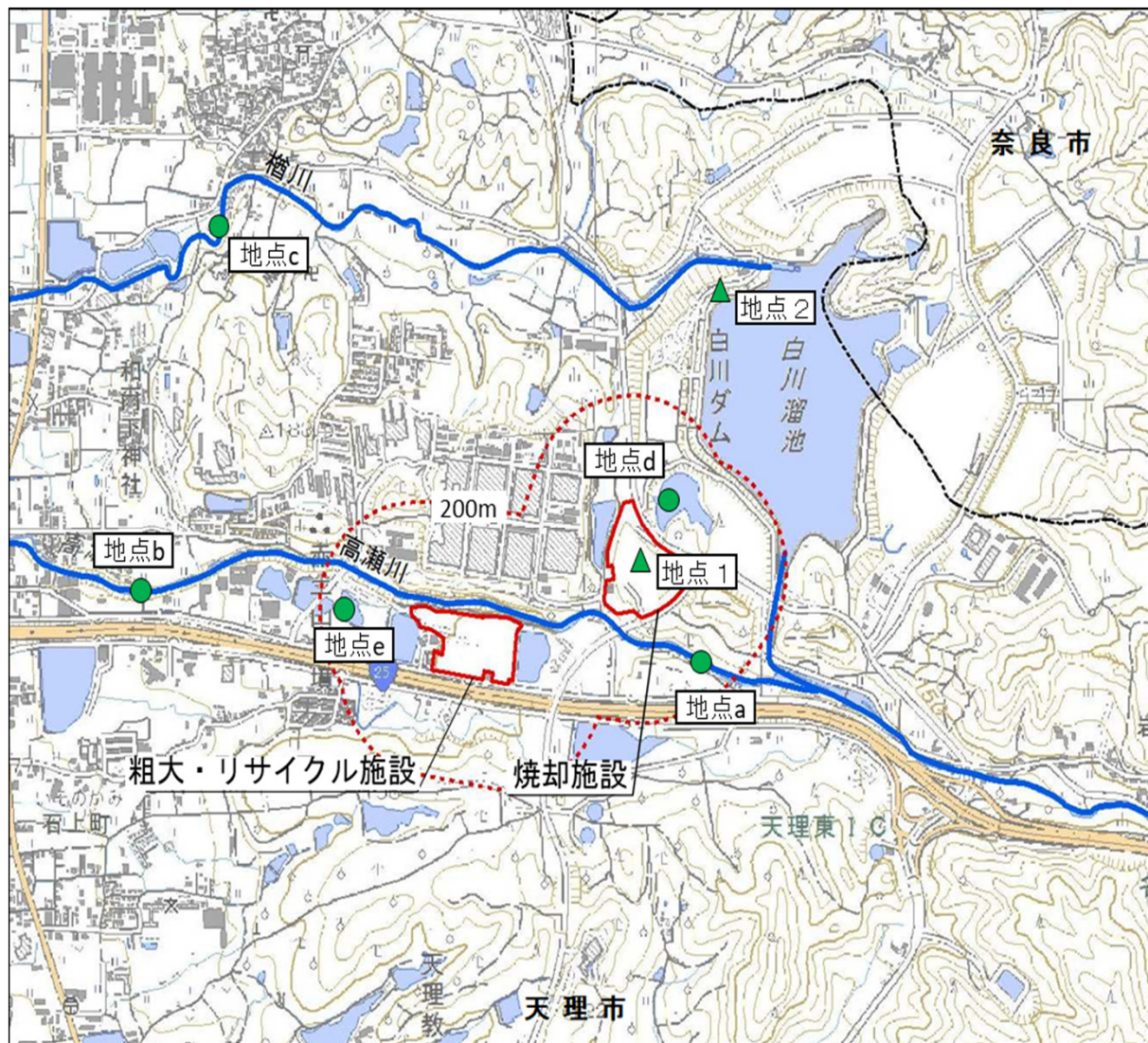
影響要因	予測項目	予測地域	予測時期
施設の有無	生態系	動物及び植物の調査地域調査地点と同様	施設の稼働が定常の状態となる時期

## 4. 環境影響評価項目及び調査・予測・評価の手法

### 動物、植物、生態系

### ③調査地点

(※方法書213、216頁)



**凡例**

- : 対象事業実施区域
- ⋯ : 動物・植物調査範囲 (半径200m)
- · - · : 市界
- : 河川
- ▲ : 猛禽類調査地点
- : 魚類・底生動物調査地点

猛禽類	地点1	焼却施設建設予定地
	地点2	白川ダム北西湖畔
魚類・底生動物	地点a	高瀬川上流
	地点b	高瀬川下流
	地点c	樽川下流
	地点d	原谷池
	地点e	上三ツ池



#### 4. 環境影響評価項目及び調査・予測・評価の手法

##### 部会意見（動物、植物、生態系）

部会意見	事業者
魚類底生動物の調査地点について、選定理由を準備書に記載すること。	部会審議の内容を踏まえ、準備書に記載する。
植物の調査について、湿地及びため池の中の水草類についても調査を実施すること。	部会審議の内容を踏まえ、調査を行い、準備書に記載する。

## 4. 環境影響評価項目及び調査・予測・評価の手法

### (11) 景観

#### ① 調査手法 (※方法書220頁)

文献その他の資料調査			
・文化庁公表資料やその他公的機関公表資料(郷土資料、自然誌、観光パンフレット等)による主要な眺望点、景観資源及び主要な眺望景観についての情報収集及び整理			
現地調査			
環境要素	調査項目	調査地点	調査期間
景観	主要な眺望景観	対象事業実施区域を眺望可能な11地点	4季(春季・夏季・秋季・冬季)に各1回

#### ② 予測手法 (※方法書223頁)

影響要因	予測項目	予測地域	予測時期
施設の存在	主要な眺望景観	対象事業実施区域周辺の眺望点11地点	主要な眺望景観に係る環境影響を的確に把握できる時期

## 4. 環境影響評価項目及び調査・予測・評価の手法

### (12) 人と自然との触れ合いの活動の場

#### ① 調査手法 (※方法書225頁)

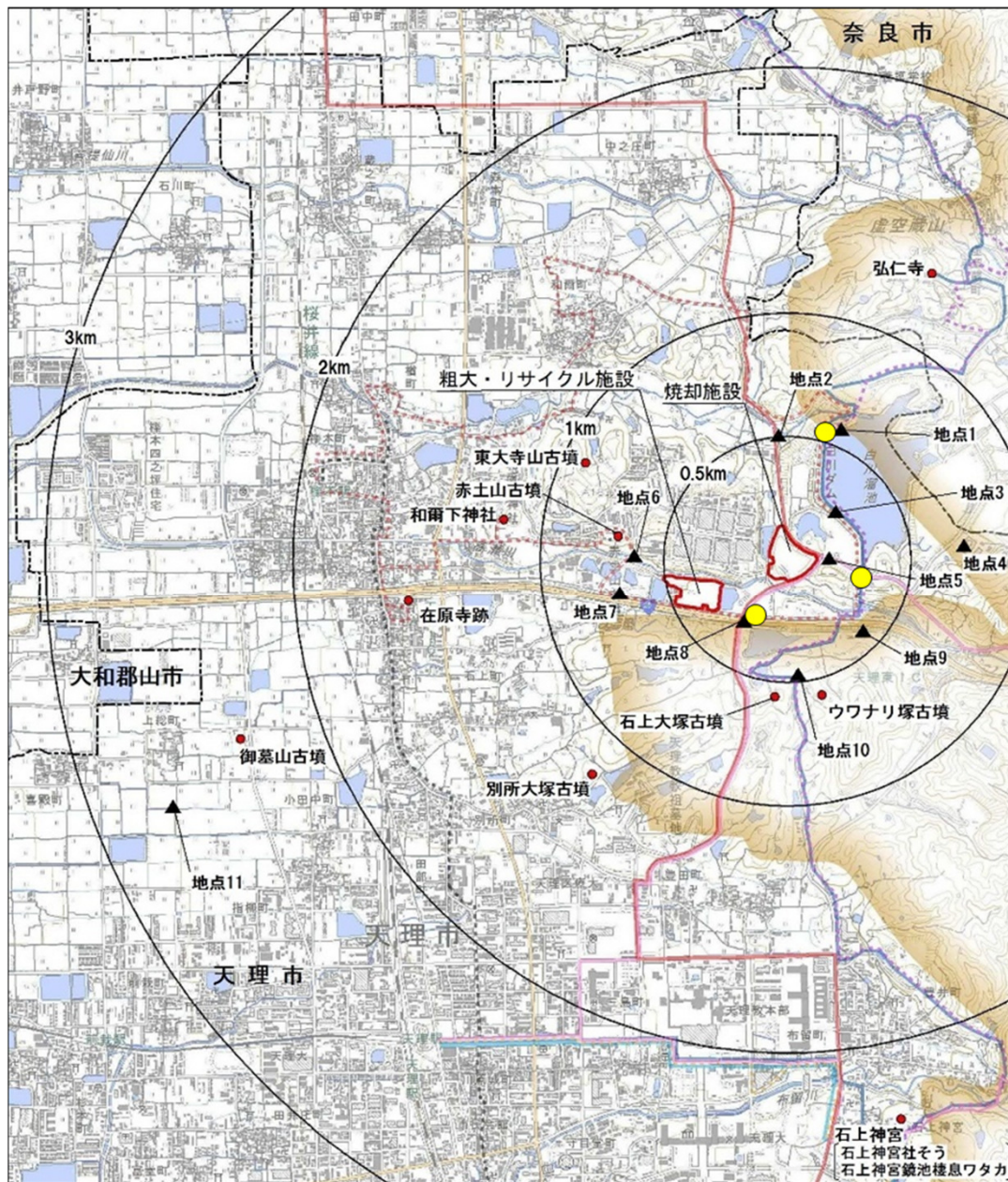
文献その他の資料調査			
・文化庁公表資料やその他公的機関公表資料(郷土資料、自然誌、観光パンフレット等)による主要な眺望点、景観資源及び主要な眺望景観についての情報収集及び整理			
現地調査			
環境要素	調査項目	調査地点	調査期間
人と自然との触れ合いの活動の場	主要な人と自然との触れ合いの活動の場における分布、利用状況及び利用環境	対象事業実施区域周辺のサイクリングコース及びハイキングコース上の3地点	1季(春季)に平日・休日に各1回

#### ② 予測手法 (※方法書227頁)

影響要因	予測項目	予測地域	予測時期
工事用車両の運行	主要な人と自然との触れ合いの活動の場における分布、利用状況及び利用環境	対象事業実施区域周辺のサイクリングコース及びハイキングコース上の3地点	利用状況及び利用環境に係る環境影響が最大となる時期
施設の存在			施設の稼働が定常の状態となる時期
廃棄物搬入車両の運行			利用状況及び利用環境に係る環境影響が最大となる時期

## 4. 環境影響評価項目及び調査・予測・評価の手法

### 景観、人と自然との触れ合いの活動の場 ③調査地点 (※方法書226頁)



**凡例**

- : 対象事業実施区域
- : 市界
- ▲ : 景観調査地点
- (yellow) : 人触れ調査地点
- (red) : 景観資源
- (orange) : 大和青垣国定公園
- ▨ (dotted) : サイクリングコース
- ▨ (horizontal lines) : 及びハイキングコース

地点1	白川ダム北西湖畔
地点2	市道611号豊田櫟本線(焼却施設建設予定地北側)
地点3	原谷池北東側
地点4	天理よろづ相談所病院白川分院
地点5	市道611号豊田櫟本線(焼却施設建設予定地東側)
地点6	シャープ駐車場西端
地点7	名阪国道側道(三ツ池上南側)
地点8	白川大橋
地点9	名阪国道(天理インター方向)
地点10	ハイキングコース(東海自然歩道・山の辺の道コース)
地点11	天理大学グラウンド

## 4. 環境影響評価項目及び調査・予測・評価の手法

### 部会意見（景観）

部会意見	事業者
景観デザインについて、完成形の配慮事項を整理し、準備書に記載すること。	部会審議の内容を踏まえ、準備書に記載する。

## 4. 環境影響評価項目及び調査・予測・評価の手法

### (13) 廃棄物等

#### ① 予測手法 (※方法書228頁)

※廃棄物等の予測は、工事計画等の情報の整理・分析結果を基に予測を行う。

影響要因	予測項目	予測地域	予測時期
切土工等	建設工事に伴う副産物	対象事業実施区域	全工事区間
施設の稼働	廃棄物	対象事業実施区域	施設の稼働が定常の状態となる時期

### (14) 温室効果ガス等

#### ① 予測手法 (※方法書229頁)

※温室効果ガス等の予測は、工事計画等の情報の整理・分析結果を基に予測を行う。

影響要因	予測項目	予測地域	予測時期
施設の稼働	温室効果ガス等 (二酸化炭素)	対象事業実施区域	施設の稼働が定常の状態となる時期

## 4. 環境影響評価項目及び調査・予測・評価の手法

### 部会意見（その他事業計画）

部会意見	事業者
煙突の高さについては、自主規制値を十分達成できる条件で、景観にも配慮し、決定すること。	部会審議の内容を踏まえ、煙突の高さを決定し、準備書に記載する。

## 4. 環境影響評価項目及び調査・予測・評価の手法

### 審査部会における意見概要、事業者の見解（廃棄物等、その他事業計画）

意見	事業者見解	部会意見(案)
<p>焼却処理方式の選定については、施設整備検討委員会で検討されるのか。また、その選定は終わっているか。</p>	<p>焼却処理方式は施設整備検討委員会で検討を進めており、ストーカ方式、流動床方式といった焼却方式で行うことで提案をいただいております。</p>	<p>質問事項</p>
<p>収集運搬計画について、直接持ち込む車両が小計の半分近くある。台数を規制される説明があったが、どのような規制をするのか。</p>	<p>天理市の直接持ち込み車両は普通自動車で65台/日を見込みますが、これらが集中的に搬入すると混雑の原因となるため、予約制などにより台数に規制を設ける予定です。</p>	<p>質問事項</p>
<p>建物全体の意匠として、提案する事業者に景観に溶け込むような大人しいデザインにきなさいという仕様で提示するのか、逆にランドマークとして地域の中心になるような建物にする提案も認めるのか。</p>	<p>施設整備検討委員会では、地域住民から煙突高さなど景観に関しても意見聴取を行います。また、景観に関する仕様については、今後検討していきます。</p>	<p>質問事項</p>
<p>景観について、準備書の段階で完成形の配慮事項を整理して記載するということだが、どの段階で鳥瞰図や完成図が出てきて、それを審議できるのか。おおよそのタイムスケジュールを示していただきたい。</p>	<p>準備書の段階（H31.6頃）において、完成形の景観配慮事項を示すとともに、パース、フォトモンタージュを示し、審議していただくこととなります。ただし、準備書段階では建物や煙突のデザインを最終形とすることは難しいです。なお、準備書手続きと並行して事業者選定のための要求水準書を作成しますので、この中にも完成形の景観配慮事項を記載します。その後、アセス手続き終了後（H32年度）に各業者から提案を受けて事業者選定を行い、景観デザインの方針に関しても組合と事業者で協議を進めていくスケジュールとなるため、これらは審議対象のタイミングから外れてしまう見込みです。</p>	<p>質問事項</p>
<p>組合の委員会に景観の専門家がおられれば構いませんが、おられない場合は外部の専門家にご相談をいただくという段階もあっても良いのかなと思いま</p>	<p>組合の施設整備検討委員会には景観の専門家は居りません。この委員会における景観検討は、H29年度中に煙突高さ等に関する方針を示すことまでとなる見込みです。前項で示したH32年度目途の景観デザインの方針協議においては、必要に応じて外部の専門家</p>	<p>質問事項</p>